

7. 不適切な表示例

ガイドラインにおいて認められないとしている表現	表示例
<p>疾病の治療効果又は予防効果を暗示する表現</p>	<p>【明らかに疾病の予防に当たる場合】 (例)「動脈硬化を防ぐ」、「骨粗しょう症予防」、「インフルエンザの予防」等</p> <p>【暗示する場合】 (例)「血液をサラサラにする」、「血管内のプラークを減らす」、「低下した肝機能を改善する」、「γ-GTPの数値を改善する」、「骨が溶け出るのを抑え、骨が脆くなるのを防ぐ」等</p>
<p>健康の維持及び増進の範囲を超えた、意図的な健康の増強を標榜する表現</p>	<p>「皮膚、爪、髪が丈夫で美しくなる」、「満腹感の持続により食べすぎを抑える」、「朝食べれば夕食までの摂取カロリーを抑える」等</p>
<p>科学的根拠に基づき説明されていない機能性に関する表現</p>	<p>【限られた指標のデータを用いて得られた根拠に基づく部分的な機能であるにもかかわらず、当該部位全体に関する機能があると誤解を招くような場合】 (例)「身体の特定の部位(目、関節、脳等)の健康を維持する」※等 ※具体的な内容がなく、当該表現のみの場合</p> <p>【生体に作用する機能が不明確な場合】 (例)「免疫細胞の数を増やす」、「体重を減らす」等</p> <p>【一方向のデータに基づくものであるにもかかわらず、両方向に適正に作用することを期待させる場合】 (例)「血圧を健康に保つ」、「中性脂肪の改善に役立つ」等</p>